

子ども知識は今も生きる

「ねる」「たべる」「あそぶ」「まなぶ」。子どもの成長、家族の在り方を考えたyamatoyaのオリジナル商品は、4つのテーマにカテゴライズされています。商品は国内、さらにアジアを中心にお洋服タンスにふさわしい形を考案した歴史もあります。

安城で生まれ、今も安城に本社を構える株式会社大和屋は、1924年に大和屋タンス店として開業。昭和の時代に馴染み深い、子ども一人に一棹あつた子ども向け洋服タンスにふさわしい形を考案した歴史もあります。

その後、タンス作りで培った木工技術・知識を生かし1958年に育児家具の製造を開始。育児家具専業メーカーへとシフトエンジン、1962年には全国へ販路を広げました。少子化、核家族化だけでなく、住まいも畠からフローリングが主流になるなど、さまざまな変化に柔軟に対応した商品を販売してきました。

すべての商品の根底にあるのは親心で考え、作ること。過去には安城市内に専用工場がありました。が、現在の生産拠点はインドネシアなど海外。国内工場で働いていたベテランの職人は今も社内に残り、品質管理・維持をつらぬきます。

技術力のみならず、タンス店の頃から築き上げた強固な販売網も自慢のひとつ。オンラインでも購入できますが、実際に見た質感、色の風合いは実物を見ないとわからないもの。大型ベビーユ品店だけなく、町の小さな家具店でも取り扱いがあるのは、当時から築き上げてきた販売網の賜物。国内に留まらず、アジアを中心に海外でも販売しファンを増やしています。

本社オフィスの廊下を歩けば、目に飛び込んでくるのがyamatoyaの家具と写る子どもたちの笑顔。実際に使用しているユザーから届く写真と笑顔は、社員にとつて何よりの励みになっています。

社員が生み出してきたのが従来の概念に捉われない、子ども家具の数々。78万台売れて大ヒットと

子どもと親の関係を考え
ベビーチェアやベッド

子どもと親の関係を考え
ベビーチェアやベッド

「付加価値を伝え続けながら、創業百周年」



営業部 部長
浅井千貴さん

インタビューにもこやかに答えてくれた浅井さん。「本社隣接の直営店が6月にリニューアルオープンします。ぜひお越しください」とのこと

また、母親が新生児と添い寝できるベビーベッド「そいねーる」も反響の大きい商品。従来、ベビーベッドといえば、親のベッドに

子どもの成長は早いもの。だからこそ、成長した体型や変化していく暮らしに合わせて長く使える「そいねーる」と営業部の浅井千貴部長は商品への思いを話します。

見て、触れて、座つて! 直営店がリニューアル

子どものことだけでなく、家具を取り入れることで家族の関係、生活スタイルがどう変化するかまで議論を重ねるyamatoya。

「どんどんトライすればいい」という社風が根付き、アイデアを出す際は部署関係なく、それぞれが作りたい、売りたい家具を提案し合います。

実際に購入を考えている人、ユザーとの会話を大きな学びの機会。絶好の場が、本社に併設されている直営ショップの存在です。コロナ禍の前には、頻繁にイベントを実施して、販売する場だけではなく子育てママから話を聞いたり、子育て相談にのることもあったそ



yamatoya[®]

株式会社大和屋
安城市三河安城本町2-8-4 ☎0566-72-7771
<https://www.yamatoya.jp.com>

[オンラインショップ]
<https://www.shopyamatoya-jp.com>
[インスタグラム]@yamatoya_official
[フェイスブック]@yamatoya.jp



(右) 大和屋タンス店時代の写真 左3枚 桜町に工場を構えていた頃のベビータンスの製造風景

子ども家具メーカー yamatoya

もうすぐ

子育て家族とともに百年

安城市で生まれ、2024年で創業100周年の節目を迎える株式会社 大和屋。

「yamatoya」のブランド名を冠した子ども家具メーカーとして知られています。

始まりはタンスメーカー。昭和に大ヒットしたベビータンスを考案した会社でもあります。

